

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670400294
法人名	医療法人 是松医院
事業所名	グループホーム 青葉園
所在地	徳島県阿南市見能林町青木75-3 (電話) 0884-24-6858

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 14日

## 【情報提供票より】(平成20年1月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺き 造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000~13,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(1月21日現在)

利用者人数	16 名	男性 6 名	女性 10 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.5 歳	最低 65 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 是松医院	・医療法人 中野歯科医院
---------	------------	--------------

徳島県 グループホーム青葉園 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、国道を少し離れた田園が広がるのどかな住宅街に位置し、民家風の造りは周囲とよく馴染み、玄関先に植えられた庭木や草花は季節感が感じられる。母体の医療機関とは日常的に連携が図られ、かかりつけ医による毎週の診察や緊急時の対応も可能である。また、運営者は、サービスの質の向上に熱意をもち、管理者、職員と常に話し合い協働した取り組みがなされている。職員は、利用者が地域の一員として、その人らしくいきいきと暮らし続けることの大切さを認識し、毎日の散歩や自治会行事、地域の秋祭りや花見等、利用者の楽しみ事や地域交流を積極的に支援されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、「理念の共有、社会資源を盛込んだ介護計画、専門的立場からの栄養バランス、身体拘束に関する書式(説明・同意)、応急手当てに関する定期訓練、研修の年間計画、ホーム便りの発行、入浴支援、市町村との交流、ヒヤリハット事例の活用」等があげられていたが、運営者、管理者、職員の真摯な取り組みにより改善が図られていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は、外部評価を実施する意義をよく理解し、自己評価を全職員で取り組むなどサービスの質の向上に努められている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会役員、利用者代表、利用者家族等で構成され、2ヶ月毎に開催されている。会議では、前回の検討事項等の経過報告、事業所の課題、取り組みの現状報告など、双方向的な話し合いがもたれ、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見、要望等を伝えやすいように、家族会等で常に問いかけ、来訪時には話し合いをもつなど職員ミーティング等で協議されている。外部の苦情申し立て機関等は、説明書で案内されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会の協力を得て花見のための四阿(あずまや)やベンチを作っている。事業所は、教会の子供たちや元保育士による紙芝居(1/2週)等、ボランティアの来訪も多い。また、地域の神社周辺の清掃活動などにも参加し、地域の文化祭やお祭り、農村舞台での浄瑠璃を近隣の人たちと楽しむなど、利用者と共に積極的な地域交流が行われている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は、従来の理念に加えて、利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしの継続を支援することや、事業所と地域の関係性の強化を謳い、更新している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、職員間で共有を図り、日々の具体的なケアへ反映されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、神社周辺の清掃や秋祭り、農村舞台の準備などに参加している。地元の文化祭には利用者が力を合わせた作品を出展している。また、クリスマス会では、近くにある教会の子ども達がホームを来訪し、讃美歌を歌うなど積極的な地域交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、外部評価を実施する意義をよく理解し、全職員で自己評価に取り組むなど、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、地域包括支援センター職員や民生委員、自治会役員、利用者代表、家族代表者等で構成され、2ヶ月毎に開催されている。前回の検討事項の経過報告、事業所の課題、取り組み状況等を報告し、双方向的に話し合いがもたれ、サービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。協議された内容はミーティング時に報告し、議事録はファイルされ、スタッフルームに備えてあるが、職員が閲覧したことを示す印(サイン)がなかった。	○	運営推進会議で協議された内容はミーティングで報告されているが、さらに、全職員が内容を閲覧、共有し、押印する等といったシステム作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市町村担当者とは常に連携し、ホームの運営やサービス課題についていつでも相談できる関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりを個々のアルバムに整理し、面会時に見てもらったり、2ヶ月毎に発行している「青葉園だより」に担当者からのメッセージを添えて、定期、随時の報告がなされている。金銭出納帳は適切に記録され、家族の押印もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時等を利用した話し合いの場がもたれ、利用者、家族が意見や要望等を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。出された要望等は、ミーティングや運営推進会議で協議されている。また、外部の苦情申し立て機関は重要事項説明書に明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動等による利用者の不安、寂しさ等の影響に配慮し、2ユニットの全職員を対象として、週毎に数名ずつの異動を行い、全職員と全ての利用者が常に馴染みの関係にあるよう取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の資質向上に熱意をもち、段階に応じた年間の研修計画を立て、法人内外の研修を継続的に受講できるよう配慮されている。また、全職員が研修内容を共有できるよう報告会が開かれ、ファイルされた研修資料はスタッフルームに整備されている。しかし、全職員が閲覧したことを確認できる印(サイン)がない。	○	閲覧済みを示す印(サイン)等、情報が共有できていることが確認できる仕組み作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は、地域の他法人のグループホームと交流をもち、互いの事例検討会に参加したり、ホーム見学、職員間の交流等を通じてサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族と必ず面談を行い、パンフレットや見学によってホームの構造や雰囲気を知ってもらったり、さらに2～3日の体験入居等を実施するなど、家族が安心し、利用者が徐々に馴染みながらサービスを利用できるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意なこと、生活の知恵、技を教えてもらう場面を大切に、利用者と共に暮らす同士として思いを共感し、支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されて間もない利用者の帰宅願望や入浴拒否が続くなかで、管理者、職員は、本人の思いや暮らし方の希望を模索しながら、利用者のペースに合わせた対応や言葉かけをされている。深夜に一度、入浴を行ったことがあり、その時の状況が話し合わせ、本人の望む生活に向けて検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や職員、関係者の意見等を反映し、地域の特性を活かした社会資源に参入し、本人の生活歴を重視した個別具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しの他、毎月のケアカンファレンスで職員の気づきや最新の情報を集めるなど、実情に即した見直しと現状に応じた新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制に加え、看護職員が配置され、24時間の緊急時対応と健康管理が行われ、利用者、家族の安心感に繋がっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望により、母体医療機関の医師が大半の利用者の主治医となっており、週一回の往診の他、緊急時の対応もあり、詳細な訪問診療記録も残されている。その他、歯科通院等の支援は、希望に即した柔軟な対応がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明し、アンケート調査を行うなど、本人、家族の意思の確認が取られている。また、関係者間で話し合いがもたれ、「看取りの指針」等を作成し、全員で方針の共有が図られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人情報保護法の理解に努め、外来者等に対する秘密保持の徹底が図られている。利用者への言葉かけや対応等は誇りやプライバシーを損ねない穏やかな支援がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの本来持っているペースを尊重し、その日の希望の把握に努めるなど、基本的な一日の流れのなかで、体調に配慮しながら柔軟に対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、テーブル拭き、配膳下膳等、利用者の力量に応じた役割があり、職員と楽しそうに準備がされている。食事は、同じものを和やかにいただき、職員の細やかでさりげないフォローが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は本人の希望を大切にし、入浴を嫌がる利用者には、声かけやタイミングの工夫、チームの連携によって無理のない入浴支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを活かした役割り、楽しみごとの支援が行われ、お手伝いには必ず感謝の気持ちが伝えられている。そろばんが達者な人、雑巾縫いの名人、畑の草引き等、利用者主導の取り組みがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を身近に感じてもらうため、利用者が大好きな散歩は毎日のように出かけている。また、月1回は喫茶店へ出向き、楽しい時間を過したり、近隣の神社の秋祭りやその周辺では桜の花見、農村舞台で上演される浄瑠璃を楽しむなど、日常的に戸外へ出かける支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の前を生活道路が通り、そのすぐ先は交通量の多い国道となっているため、利用者の安全面を配慮し、玄関の鍵は、朝の散歩時の1～2時間を除いた他は施錠されている。	○	全職員は、利用者の希望に応じた外出の支援をされているが、さらに、日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解され、利用者の安全を確保しながら、鍵をかけないですむ工夫の検討が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法等の訓練が、消防署の協力のもと定期的に行われている。また、自治会からの提案により、地元消防団との連携も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの一日の食事、水分摂取量を詳細に記録し、こまめにお茶の時間を設けるなど水分補給に配慮している。栄養バランスについては、運営者の知人である管理栄養士から定期的なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に植えられた庭木や草花は、利用者、来訪者にとって季節感があり馴染みよい。共用空間の一角にゆったりとした和室があり、利用者は、コタツやソファでくつろぎ、テレビを観たり、談話したりと思いいいに過ごされていた。また、廊下や掲示板には文化祭の出展作品や利用者、職員協働の季節の物が飾られ、アットホームな雰囲気を感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や大切な写真、好みの小物等が持ち込まれ、それぞれ、利用者の生活スタイルに合わせて個性があり、居心地のよい生活空間となっていた。		